

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06354

研究課題名(和文) 精神障がい者の社会的包摂へ向けた新しい連帯パラダイムの構想 日仏国際比較調査

研究課題名(英文) Research on a New Solidarity Paradigm Aiming at Social Inclusion of Person with Mental Disabilities

研究代表者

樋口 麻里(Higuchi, Mari)

大阪大学・人間科学研究科・助教

研究者番号：80755851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、社会的入院やホームレス化という形で、社会的に排除されるリスクの高い精神障がいをもつ人々に焦点を当て、かれらの地域社会における社会的役割の獲得を促すケア実践について、主にフランスの専門職、家族、精神障がい当事者への聞き取り調査および参与観察調査を行った。また、調査から得られる質的データの分析に関して、ソフトウェアの効果的な利用法を提案した。

研究成果の概要(英文)：This research explored care practices which encouraged persons with mental disabilities to acquire social roles by fieldwork research with them, their families and health care personnel. The fieldwork was mainly conducted in France. This project also investigated effective use of CAQDAS (Computer-Assisted Qualitative Data Analysis Software) on analysis of qualitative data.

研究分野：社会学

キーワード：ケア 社会学 フランス 精神障がい アソシアシオン 社会的包摂

1. 研究開始当初の背景

本研究では、社会的入院やホームレス化という形で、社会的に排除されるリスクの高い、精神障がいをもつ人々（以下、精神障がい者とする）に焦点を当てる。そして、フランスと日本の精神障がい者への地域生活支援の事例から、どのようなケアが精神障がい者の社会的排除の解消をもたらすのかを明らかにする。フランスは、医療機関だけでなく、民間組織のアソシアシオンによる活動が活発で、精神障がい者への地域ケアが両セクターから供給されており、世界的にも精神障がい者の入院日数が短い。そこで本研究は、精神障がい者の地域ケアに携わる専門職を中心とする人々が、どのようなケア実践を行っているのかを質的調査から明らかにする。また、調査結果の日仏比較を行い、日仏での特徴と共通点について検討する。

2. 研究の目的

本研究では、精神障がい者へのどのようなケア実践が、かれらの社会的役割の獲得を促すのか（あるいは妨げるのか）を、フランスと日本の専門職と家族、精神障がい当事者への聞き取り調査および参与観察調査から明らかにする。

3. 研究の方法

フランスのアソシアシオンでの参与観察およびインタビュー調査

・精神障がい者支援を行うアソシアシオンで働く専門職が、精神障がい者にどのようなケアを提供しているのか、またそれはどのような動機に基づくのかを、調査データから分析した。

・フランスの精神障がい者家族への補足調査を行い、専門職からのケアサービスの提供について情報収集を行った。

質的データの分析におけるソフトウェアの効果的利用方法の検討

本研究では、インタビューや参与観察から得られた質的データを扱う。そこで、質的データ専用の分析ソフトウェアである QDA ソフトウェア (Qualitative Data Analysis Software または CAQDAS : Computer-Assisted Qualitative Data Analysis Software) が、どのような分析法に適しているのかについて、代表的なソフトウェア 2 種類を取り上げ、それぞれに特徴的な機能を比較検討した。

4. 研究成果

フランスの専門職への聞き取り調査と家族への補足的聞き取り調査とを行い、その結果

を国内学会と国際研究会で報告した。これまでに、欧米は日本よりも地域生活支援サービスが充実していることから、欧米の家族は、日本の家族よりもケア負担が少ないのではないかと言われてきた。しかし、調査の結果から、地域医療へと移行したフランスでも、家族は日本と同様の多大なケアを負担していることが明らかになった。その背景として、精神障がい者の希望なしには、地域生活支援を担う医療機関やアソシアシオンの専門職は介入しないという、専門職の態度が影響していることが示唆された。

当初は日本での調査も予定していたが、フランスのフィールドとの調査手続きに予定以上に時間がかかった。そのため、研究期間内に日本で新規の調査は行わず、これまでに研究代表者が行ってきた調査データを参照することで、フランス調査との比較を行った。

計画段階では予定していなかった、フランスの精神障がい者のセルフ・ヘルプ・グループから、精神障がい当事者・家族・専門職の三者間の意見交換活動プログラムについて、参与観察を行うことが受け入れられた。この新規フィールドでの参与観察調査は、研究計画年度の途中から開始されたため、予備的調査の段階にある。現時点での調査から、専門職は、自身が精神障がい者との治療関係の維持にとられやすく、精神障がい者の地域生活をかえって制限しているのではないかという不安を抱いていることが示唆されている。

今後も当該フィールドでの調査を継続し、専門職のケア実践の葛藤について明らかにしていく必要がある。

調査に協力していただいたフランスの団体で、と についての研究成果報告会を行った。報告会には、専門職・精神障がい当事者・家族が参加しており、それぞれの立場から研究成果に対する意見交換を行った。とりわけ、フランスの当事者と家族からは、日本の当事者および家族の生活状況についての質問が多く、当事者の生活実態に関する国際比較への関心の高さがうかがわれた。

フランスの報告会では、日本にもフランスと類似する、障がい者年金制度や生活保護制度があることは、専門職・当事者・家族のいずれにもほとんど知られていなかった。ここから、日本の精神保健や社会保障の状況に対する認知の低さが示唆された。

QDA ソフトウェアの Atlas.ti7 と Nvivo11 について、各ソフトウェアに特徴的な機能を取り上げ、そうした機能がどのような分析方法を想定して設計されているのか、またどのような方法に適合的なのかについて検討した。

Atlas.ti7 に特徴的な機能として、コーディングの作業画面（図 1）と、コード間の関係を考えるために使用するネットワーク図（図 2）に注目した。Atlas.ti7 のコーディングの作業画面では、1 か所のデータに複数のコードが集中しても、コードの表示領域を拡げて、コード名をすべて表示することができるため、質的データとコードの対応関係が把握しやすい。ネットワーク図は、作業画面内のアイテム間を矢印で関連づける機能である。NVivo11 にも類似する機能は設計されているが、Atlas.ti7 の特徴として、関係性を指定した矢印（例えば、「contradicts」や「is associated with」などの文字が添えられた矢印）を設定できるのは、データに直接根差しているアイテムに限定されている点がある。コーディングやネットワーク図のこうした機能の背景には、質的データがもつ細かな文脈を分析に取り入れて、データに根差した分析を目指そうとする、Atlas.ti7 の開発姿勢があると考えられた。このような Atlas.ti7 の機能は、グラウンデッド・セオリー・アプローチに適合的であると言える。

NVivo11 においても、コーディングの機能が設計されている（図 3）。しかし、NVivo11 の場合は、複数のコードを限られた範囲のデータに割り当てるという作業には不向きであった。NVivo11 のコーディング作業画面は、自動コーディングや、ある程度抽象度の高いコードを割り当てることを想定して設計されていると考えられた。こうしたコーディング機能は、概念の構築よりかは、データの分類により適している。NVivo11 に特徴的な他の機能として、行列コーディングと自動コードの機能がある。行列コーディングは検索機能であるが、その結果が立体図として視覚化される（図 4）。そのため、属性別のデータの特徴などが把握しやすい。これらの機能的特徴から、Nvivo11 では、量的データと結合して分析を進めるミックスド・メソッド・アプローチといった、多様な方法への対応が示されていることを示した。

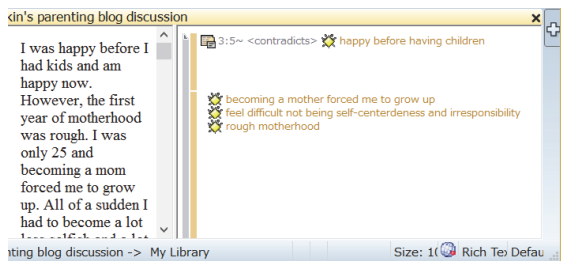


図 1. Atlas.ti7 によるコーディング作業画面
（樋口 2017）より一部改変して引用。）

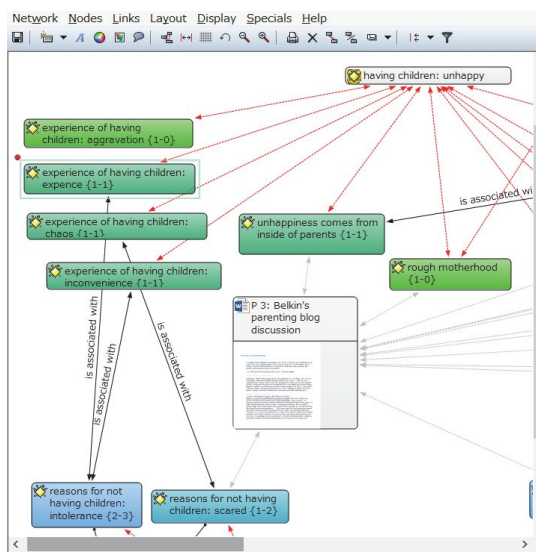


図 2 Atlas.ti7 を用いたネットワーク図
（樋口 2017）より一部改変して引用。）

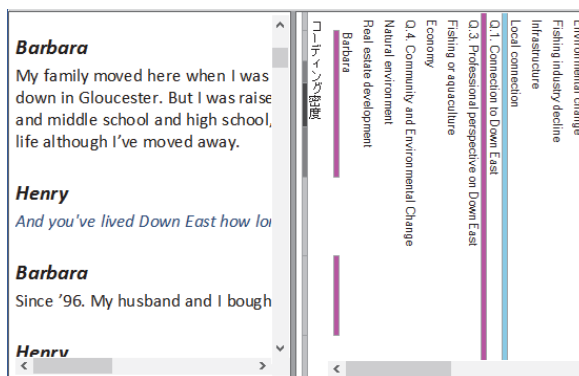


図 3 NVivo11 によるコーディング作業画面
（樋口 2017）より一部改変して引用。）

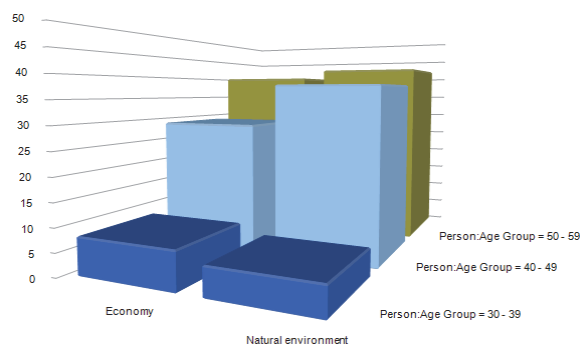


図 4 NVivo11 による行列コーディング
（樋口 2017）より一部改変して引用。）

5 . 主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

樋口麻里、「質的データ分析支援ソフトウェアの機能と背景にある考え方 Atlas.ti7 と Nvivo11 の比較から」、『年報人間科学』、38 巻、2017、193-210
DOI: info:doi/10.18910/60474

〔学会発表〕(計 3 件)

樋口麻里、「なぜ精神障がいをもつ子へのケアを引き受けるのか 親のケア行為とその動機の日仏比較」、第 25 回日本家族社会学会大会、於追手門学院大学、2015 年 9 月

Mari HIGUCHI, "Interaction Effect of Social Values and Genetic Causal Aspect of the Mental Disorder on Family's Care-giving Motivation in Japan and France," *Rencontres Internationales. Partager la science, partager les valeurs le challenge de la diversité / International meeting. Sharing science, sharing values the challenge of diversity*, Toulouse, Inserm U1027 / Université Toulouse -Paul Sabatier, December 2015.

樋口麻里、「ケアの互酬性における脆弱性の機能 フランスのアソシアシオンによるケア実践の事例から」、第 89 回日本社会学会大会、於九州大学、2016 年 10 月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

樋口 麻里 (HIGUCHI, Mari)

大阪大学・大学院人間科学研究科・助教

研究者番号：80755851

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者